

アスパラガス暖秋対策について

R5.10 アグリ技研（株）

近年春芽は減少傾向??

生育後半に温度が高いと春芽は減収するの？

アスパラガスは秋から冬にかけて休眠現象となり地上部で生成した養分を貯蔵根に貯えて春芽の萌芽時に使用します。
今年夏場から気温が高く萌芽も地域によっては11月初旬まで続きそうです、この様な年は、データ上も養分蓄積にロスを生じて春芽の階級や収量減となる場合もありますので例年の管理とはやや異なる管理に努めましょう。

ならどの様な対策を講じる!!

1. 気温高ければ萌芽もダラダラと続く → 可能な萌芽抑制対策

- ① 秋芽の収穫打ち切りを早くします。
- ② 養分転流時期までは灌水量を減らします。（7～10日に1回）強制休眠対策
- ③ 収穫打ち切り後に萌芽する茎は早目に切り取ります。

2. 収穫終了後も圃場巡回 → 刈取までの茎葉維持（緑色⇒黄金色）

- ① 光合成作用を十分に発揮するためにも後半まで茎葉は緑色で保ちましょう。
- ② 最低気温10℃以下になったら動き出します。PKゴーを3～5回散布（増やす）
- ③ 最低気温10℃以下から3日間隔で灌水を増して養分を転流促進
- ④ 既に斑点性等の多発圃場は灌水を控え後半多灌水で刈取を遅くしましょう。
- ⑤ 養分転流前後にカリ成分の低い圃場ではカリチャージ30kgの施肥（転流）

3. 高温は養分転流の充実不足 → ハウス内の低温環境や地温抑制対策